今人千影俳句集

秋三

むすびあの手紙

へ 5
2089
3

へ利 5
2089
13

京都帝國大學圖書

今人千題發句集巻之二

梅室素芯校正

明治堂

芝ノ英ら部

蹠自

のいかるるの音あき蹠自ル　素雅
為る花ぬ人ものら遠蹠自ル　重庵
重庵しの自一枝伸る蹠自ル　兄外
る雪ふを撥て雪ふ一雫　以素

物きさる人の物語や物語　樵山
なよ竹や家の手毎の物語　子傳

夏の部

山里や雲も秋　秋百傳
ひぐらし鳴て夏の秋　由楚
庭の地や白よりまさる麦蒔く　考有
麦秋のつやもこゝろ一もしろ　九紀
白なりて夏もしろし麦の秋　金用

出午の麦より物出ぬ麦の秋　雅麦

出午

出午や庭ハ人の咲さらし　東水
出午や新米の為茶又鮒　由楚
出午の麦畑や深山の白　古武
出午や茶ハさらさる物行と　住夕

夏の部

夕動頃てまこゝろ出き木槿ハ　兄月
物く麦を力よ国も木槿ハ　卓他
物とくと答るきゝの出くけハ　守耕
茶ひろて物人の麦も出ける　考雅

橋守ハ宿は留のあしむかご　石居
一里なし木槿咲れハなりけり　蒼虬

零餘子

掌にこぼしてまはるむかごかな　乃蕎
つる先の家根へうつくむかごかな　棲山
葉ちるこゝに餘くおちむかごかな　篤古

むし

よく聞ハなかりの庭やむしの聲　如柳
云る向やしきや物おけに虫の聲　兼窓
同かけのちぎれ枕やむしの聲　桂山
啼さかる虫よ鈴鳴る秋毎か　楠月
自我偈によむ君の跡や虫の聲　小瓶

迎火

迎し火や精何ゝ妻のまかくし　凡外
扇うりて人の迎火詠めけり　篤古

虫送

雁の来て外村の虫も送りけり　萱丸
虫送り門を焼くに出合けり　逸窓
松明の空にうつるや虫し送り　子傳

虫ノ音之部

麦蒔

芸まるをうけて麦蒔山桃花　東亭
休門を挑て麦蒔生るかな　一詠

宝咲

宝咲や屏風の内の一ふしき　梅宮
宝咲や時を過ぎて宝落花　素交
結枝もなりて咲やすこのため　嶋花

うの華を新

竹ふりて接つけるや　徐　初
咲るめしき大盃やうらうらのため　柏梅
徐るめさきさき等の奥ゆし　素山
きり屠も獨活のそうめん白い小　不年
　　菊山

俳

俎板や庭付の春芹獨活小　春九

梅や咲つよ怪我もおきる和　屠橋
稼ものうらいそや行よ作ろう　一具
うらいそや咲て生るもそうまる　屠的
梅や苦を出て咲長ふし　梅宝
梅や点を生る色紙ある　兄外
うらいそや長寿て移紙の等　一旭
梅名の相よ痛兄う一疵手　柳壺
梅菜摘てうらいを寿まう　銀徐
うらいそや一里の行て二丈門　秋屠
咲のうらいを過き山路うま　小山

四角
寺傳
丁初
梅之
芳笑
希伯
卓池
鶯芝
素風
鶯自
梅通
而先

鶯
鶯哲
鶯
五加木

斗門
徒る
雲籠
南く
獲物
己酉
信月
南山

菜の芽の匂ひをまつきしうくひす　僊物

梅かゝや存しみけるゝ梅の中　梅室

手や笠をまつゆるめて梅見かな　種泉

梅かゝやかくこと梅の匂ひかな　野呉

新屋すしるる白いやうめの花　梅巣

明るまゝ暗し寒しや梅の空　二丘

うめ寒しつくまめる風の館　意則

梅咲や水なき池も庵の中　一雅

粗朶の香も春さけや梅の花　岡松

見てあれはなる遠出来る梅ハ　五丈

多くしよ館は流れてうめの花　由之

梅

月見して梅の夕暮浮れたり　未足

うめ咲や岩間の雪の咲溜り　一旦

稚童の通り咲けり蒔の梅　梅影

紅ゐるさは菊まで捕やうめの花　梅居

中しまの他へ行義や月と梅　見外

古の名は梅でなりきぬ野原小　亀友

小梅や家若まるも一精　一丸

花有る孫て構ゆるとのうめの花　亀杖

舟見てよるや東まうちの花　梅之

よ所向ハ人の居つれて梅のさる　不係

主よつゆゝ梅の小家の紅ゐかり　文志

咲てゐる梅を見すぬや浅茶　等笠

向ひてやがて梅くゆる白雪の
梅ちるよ咲きやが梅の一のうち　一陸
白雪を踏てうめの花を空中に　一の屋
うめ咲やが春よりうつる春の花　花の水
白雪さへ梅も春の枯木立　東雨
もうめの花と義八うつみて白うめ　乙鳥
年ふれど梅ぞ高の高の高の花　芝角
孫のうめ中ちしくと咲て雀　梅枝
八おうのうつるうめの花　必窮
春よめて梅ぞ咲るやうの花　風郎
来姫よ一度ちうつ梅のむ　魯石
高尾て年の咲うやうの花　青矣
卓池

うつ白梅うつしうつ咲うつ　盛年
梅ちて垂うつ咲やが梅の影　山影
生梅ちも人のうやうめのむ　生静
梅ちる人もまうち梅に梅に　北山
一節の梅の書やが東風の舟　梅翠
梅一梅生のうつ人梅のほうに　明舎
蕾のうつ梅よ咲ちまてうめのむ　梅器
梅ちる先の梅の入て梅に梅むむ　李雄
梅さくやが年ちに咲る梅のる　魯長
うめ面へうつ甲うつ梅の素梅に　風梅
近のうつ出梅と素ちる梅のむ　万象
義門の梅ちも垂うつうめの花　且春

うノ夏うち郭

知恩

帆柱の[illegible]ゆ[illegible]る白小　卓郎
先[illegible]く[illegible]橋奮徳[illegible]る郭白小　橋意
山水の春も行よりきあつき小　蒼机
あくるりさるや白の稲重雅　傳水

蓮庵

人行ちく蓮庵の屋や遊一[illegible]る
[illegible]る出てあるるくれぬうちハ小　一[illegible]
紅[illegible]て為橋[illegible]ほこの[illegible]る蓮庵小　卓池
稼先く先[illegible]る[illegible]ちまち[illegible]ル　苣先
さうしき蓮庵先[illegible]ゆ一書の[illegible]　伯て
　　相南

下

郭の先

時雨も春ぬ郭の[illegible]ル小　傳民
[illegible]の[illegible]の[illegible]ル南　先字

郭の花

郭の[illegible]ゆ[illegible]て咲[illegible]ル　水竹
[illegible]花や[illegible]る春の火　卓池
郭の[illegible]ゆ[illegible]ル八[illegible]ル　蒼机
郭の[illegible]ゆ[illegible]る[illegible]ル　一[illegible]
郭の[illegible]ゆ牛[illegible]ル小　伯[illegible]

[illegible]も[illegible]の先[illegible]る[illegible]ゆ　伯年
[illegible]ゆて[illegible]を[illegible]ゆ[illegible]ル　良輔

[illegible]

一雅　井丈　[illegible]　一僕　如柳　素風　[illegible]　[illegible]

籾

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

落

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

等

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

井水

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

瓜

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

嶮しき山の中を過ぎて遠くの郭　岡林　子松

羅

羅や角ばかりの岩ばかりの中　卜字

羅や角ばかりの岩ばかりの中　清書

羅や角ばかりの岩ばかりの中　秋青

羅や角ばかりの岩ばかりの中　清書

羅や角ばかりの岩ばかりの中　横山

羅や角ばかりの岩ばかりの中　松丈

羅や角ばかりの岩ばかりの中

一

一ばかり一つ一つ　羅　芳雅

二度ばかりなれば　仲山

四度ばかりなれば　松四

五度ばかりなれば　可合

未枯

未枯や枝ばかりの体ばかり　大林

未枯や枝ばかりの体ばかり　完象

未枯や枝ばかりの体ばかり　重房

鰻簗

鰻簗ばかりの里人十ばかり　一

鰻簗ばかりの里人十ばかり　横山

鰻簗ばかりの里人十ばかり　義九

[illegible]

梅嶺

梅の葉

梅宮

梅山

[illegible]

梅嶺

梅の葉

可翁

[illegible]

柯文

[illegible]

梅の火

[illegible]

一雅

梅の

雪の森

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

城の女

尾山女

薄氷

ふみてけり鳥の跡あり薄氷　淡節
掘つけて流るゝありうすら氷　淡叟
鳥の倒ハ見る春猫や薄氷　鳥素
ねこの郎いて入ル
の／集え郎

残る雪

山里や木の葉おりに残る雪　一雄
消のこる雪や一西の影長さ　如柳

春行

春行や　きのふのたらぬ雪　吐月

のり物や出しくはならぬ雪のなか　其所

長閑

長閑さや　春の日のなかく　素雄
鐵打つて出見し八風の吹のかへ　淡遊
長閑さの松すかり松かけの声の春　松翁
手のけらまでに遊ぶ長閑哉　大醉
青色にすむ長閑さや山のうね　増賊
山寺のうらの畑にはなる長閑哉　一具
のとかさや雲の中なる水車　五耕

野蒜

一もとの草木の垣や野蒜摘　石居
薄氷して見かけたる野蒜哉　秋声

[illegible]

俳苦

[illegible]

の丶[illegible]郎

[illegible]

清實

[illegible]

[illegible]

懐

のかりそめにくちすさび侍る
良補
里義
福者の市より中さるのかりに
卓他
ワヤ〳〵義〳〵新に懐しハ
百壽
我家より絶ぬのかりや男のる
花義
作山ケ迄ハ懐ふ
祖右
却て家抱さるのかりハ

のノ秋を旅

ものゝ哀を秋に残せる月の
春他
旅ゆく雲のまよ原の月
多益
雲ゆく秋のしらの月
時重

后の月

秋哉一ハふ月よりて后の月　一柳
仮枕ハ雲ゆ川ハ月ハ后の月　岩分
ハり秋ハ雲ハ舟ハ山の月　義古
後ハふ月ハ雲ハ月ハ　祐時
松ハ月ハ月ハ后の月　素風

野分

青鳥ハ方ハ月ハ野ハ　重義
川水の色ハ月ハ野ハ　佳外
野ハ吹井ハ秋ハ佳風ハ　一雅
佳ハ秋ハ月ハ秋ハ月ハ　尺外
水ハ野ハ月ハ芦の舟　義古

浮の雛

くゝりの子流るゝ桃や雨の雛　芭丸

路入の嫁の姪にや雨のしる　斜月

のノ名ニ郎兵衛

杉ノ部ざゝ入れ

くゝノ妻ニ　新

元日や稚子の手もはらくます　寮里

元日ハ家入てもはらくあり　万像

元日の月哉とつきぬねぶり　梅谷

元日やめでたく[illegible]　一帆

元日も素性しらぬ[illegible]けり　小鶴

元日ハ[illegible]ゆめけり　花外

草萌

流よく吹風も萌る小草けり　一蛍

千葉の臭ふも[illegible]　柳斎

粟の子の[illegible]草萌る　一々

傀儡師

歯ぬ声の傀儡[illegible]傀儡師　素屋

[illegible]傀儡師　風竹

世渡りも[illegible]や傀儡師　楼物

啓蟄

啓蟄も嵐のあとゝなる白根　大椿
くるつるハ遠くに何かのくるかけり　孝嗟
啓つるや持もさらにぬ餘やり　楠定
啓つるや杖をとるに蛙の天　竹翁
くらい蟄よその鍬をさら初子作　一家

慈姑

泥の手すゝぎて青みかゝり慈姑かり　一傑
掘もうらの家や田の畔の塩　成女

[illegible]

[illegible]ても芹摘みの小ぎしかき　蘐翁
二三日帳もつゞきぬかり[illegible]かき　菜古

くゝたち

くゝたちや盛りの椽の遠ありけり　東雅
白妙き梅のおろしやくゝたち菜　白台
薹立や採らぬ菜の花さかへる　玉光

草餅

生姜あまも猿の舞かや草の餅　一舎
餅しるもひとうりやかさのある　源哉
雪消して蓬つくや草の餅　二丘
草のもきの色につまりて野山かけ　適史
似合しき垣の畑や草の餅　蕉山
菜代もつゝぬたかや草の餅　浩風
くる空も苦草餅や庫裡の縁　不染
田うりき往して遣りぬくさの餅　羽雪

くノ夏之部

競馬

くら馬も足そろへたる庭かな　一隆
ゆふかほに難波の市も競馬　大梅
伴ひて見るや青草や競馬　下古

灌仏

灌仏やちるも又一袋し　梅可
誕生仏や頂の濡れ八九振る　一桃
灌仏や走るうちの田の溜　素丸
流れ年の絵仏は何の蛇末乳　兄外

葉ノ

紀く花や葉桜より出て歩行　織素

は

葉桜と先まつ詫く見る　素丈

梔の花

梔の花見て過ぎしより匂ひ　逸洞
口なしの花や西舟の夕栖　兄外
中々に何る家も宿ある葉の花　卓池
八重のつゝく家やくちなしの花　西遊
降る日の井にゆりし栗の花　素山
くちなしや茎に仕て候やくちなしの花　万像

栗の花

布袋子様のうちやくちなしの声　卜子
ゆかりしも見るゝゆかりし栗の花　如路
くりの花為つかぬ香のこぼれけり　雲戈

外に居る七ツさき家やかへりの先　征乙

蝌の子

蝌の子や稲住の隣し多簡　卜于

蝌の子やてりあふみたね柳也　千代尼

水鶏

常ある秋千の国や啼水鶏　其儒

白ららく水鶏雲秋も燃えあり　為何

繰りくたまりり啼すえいきな　梅室

水鶏ふまて雨近く啼けし一秋　一夜

あを啼くしみりぬ水鶏雲よあり　一雅

茉種売稲し雨りや啼水鶏　一息

青しの梅ある家や啼すえいき　卓池

蘋けく来て啼えるの水鶏かな　耕雨

鳥てりいて月まつ宿や啼水鶏　素風

何様のしけし雨りやふく水鶏　桂琳

うら何くつくえ柳田や啼すえりす　竹外

水鶏多く秋や暮るる水の音　橋熟

姫ぐして水鶏きけハや米田庫　孝甫

蘋ふて水渡家やかく水鶏　亀遊

茉玉

茉玉の物まさりらぬ白いかな　松竹

茉玉やたかの実よ青のりま　甫枝

海月

亂舟の膳よくる海月かな　唐書

うらう能の利て味よき体目ト　宋山

梅の花の香ゆかしいや雲の峰　梅花女

るの者よ砂の捨うや雲のうね　梅雪

俄り捨て白ゝ帝場や雲の峰　松蔭

捨て去て咲て去る雲の峰　卜宇

牛曳のつゝく山路や雲の峰　秋冨

京井の一筋乃や雲のうね　樵雪

拾乃りるまのつゝくや雲の峰　英来

帆よゝぬ風のまゝいや雲の峰　桂志女

舟掛まて見返る高や雲のうね　露山

一水のうきつゝるやうりの峰　惜懐

雲の峰

捨井や面よりの山も雲の峰　梅里女

夕てうよ遠近乃たて雲のうね　卓池

捨舟よ白のうきうて雲の峰　蹇る

冥菜

冥菜や雲の名の百近し　竜芽

冥菜や岩よりうつる波の者　松白

菖水

菖水や赤ゝのまゝ女貞木　大鵬

松風の去て菖水の降るうり　遠所

菖水よ庭木の戦き見つけう　破賀

うつ水や二度ゝめも絶ゝう　梅表

くゝ秋ゝ郡

草の花

雲竹

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

一郎
祖々

九月

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

春秋

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

尚象

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

菜姫

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

義古
梅山

菜刈りも露きらひしと答へけり　秋芳

草市

草市の跡に露見る踏半　復柳
草市や京散よきて若しく歩　一之
草市や一朱云路の水引しい　椿山
草の市見え屋の化すありけり　一旭

九日

菊あるのふくて嬉なりし九日哉　玉都更
なるまうる薬てしまよし九日哉　緑之
我らしと君の縁や九日を思　佳峰
蔵へ出て菊見る挿花や九日哉　鴎亭
門嬉よいのある風なりし九日哉　椿山

草の実

汲つくみく下草焼て草の実　木山
わらうの嬢の身付や草の実ちち　復柳
居て見し脈のくるま庭なり草の実ちち　世峻
一舟の人まつりくまよ草の花　草古

栗

落栗や夢大きうまく木賃宿　和柳
そのまゝよ栗まる果てや栗の毛　復柳
落ちり帯や櫛のかゝりの轡摑え　樫下
落栗や梛よりかくれ尻の水　秀里
風ぬや子供の袷かへの栗　睦雅
みくろてくもなまうよくのあり栗の毬　沙鴎

くゝ子郷

口切

口切や一子出家して侍の者　多賀
口きりや一子出家して侍の者　雪賊
口きりや一樽芳心堂の先　帝泊

茶杓

茶杓作成樽よ呼ぶ人　傳書
くゝ子の杓出雲義介　舟屋
茶杓や一きん老ひりゐる世の客　樽山

くゝ子野

くゝ子野や一本ずつ呼樽子　樽業
くゝ子野や雪の奈良水の月　一鈴

くゝ子野や仏を用意よ呼ん鳥　柴人

鰊

鰊つくゝ茶て曲るや　鰊つき　大時
物ぬきて又ぬくくゝ人や寄くゝ　小鯤

茶碗

茶碗の外まで寒る茶碗　京池
茶碗の外八月のくゝれ　一の大
茶碗寒さ太陽のくゝ茶碗　小鯤
小原庵の保名ゝ茶碗　遠流
茶碗仕舞ふ人ゝ茶くゝ　遠岡
茶碗る時の方ゝくゝ茶碗　南瓜
くゝ茶碗二月の年のくゝれ　不保

やノ集之部

毛帽子

つゝ帽子はみれて又飛雀かな　文操

やり柱子や丹頂ゝ侯鳥哉　挑手

手ぬ多く帽子冬ぬしり空の先　景柳

上ゐ之宮奥の宮まてや帽子の春　柳涯

紅帽子は夜て後ノくし雪の所　鹿山

やり帽子や風の日なりてゝ文字にゝき　草笠

毛帽子やまへ出唐らゝ笑顔ヶ　鶴古

義入

義入や面紐もおは人ゝらり　小亭

牛ゝの暗まの手て笑めや義入哉　教基

山吹

やね人の一の池さく山吹かし　立器

菊入や山吹さくる経山り　一亭池

残る花の苦さ人ぬり山吹の　丁和

山吹はゆきりま花の前ゝ　松古

化粧しゝ山吹ぬりて山の山　東梓

さゝりしと気お山も山る梅之花　風舵

手さゝりも顔の梅の柳八　楽菜

白の上や紙も雪浪れ柳　一々

降さらの雪もし一つる柳ノ森　梓素

盛る花しも八帆の行柳之花　杏年

柳

帆の尽て静かなる柳かな　續俳諧
久八人を乗せて行くや八月の江戸柳　尺外
新蕊や柳も昔俗の名　廿囊
柳陰て寄るて行くや柳かな　文賀
時雨るゝ幸の出き柳かな　健風
あれがなく出てしるき江やなぎかな　花僕
法隆の素机に寄るや柳かな　柏翁
寄柳や市場にかつる屋敷　卓池
柳まて伊の寄て出る新舟かな　一益
法ゝて重てもふるし柳かな　一壺
新伊のゝ口ゝゆるやなぎかな　ゝつ女
四の柳　我物ゝゝつゝき　柳巷

山焼

雨降も降ぬ土手の柳角　文友
待よゝ月ゝゝや柳よゝ立き　雲五
暗夕の新月ゝゝゆるやなぎかな　不及
伊の陸柳ゝきあて住ゝゝ　廿流
黄昏や柳ゝゝは伊ゝゝ　四楽
伊時よゝて山ゝゝや山焼火　喜雲
山焼や一森ゝゝき様の跡　一旭
森よゝ入や夕ゝゝて山焼ゝ　雲庵

涵生

みゝゝゝ　志や涵生の書柚　一帆
菜ゝや菜の炭粉ゝゝ涵生かな　小舟

稲のなき毛や秋生の麦まき付　素交
人寿の年可しや秋生　山　松杉

水ながれ　山吹のゆを止む　卜少
山吹や舟を尺おくる舟婦　赤月尾
象こしの山吹ちるや稲の水　麦机
山吹や一茶よりも水八陣裏　雪松

やり長し郭

藪椿

大寺のこの池廣し藪椿　山海
椿ぬし藪椿ぬしいしふくもく　素交

町中よりまする小寺や藪椿　百杯

やり秋し郭

柳藪

吹屋のけむりよる藪の柳水　相角
供水の跡いやつ吹てまる柳　柳々
このさしの屋ぬきまる柳ちる　素山

蕎麦

屋形の白よ隠れて山の草　逸角
旅宿の孫きこうるや一やもの口　柳屋

やく年や舟の小柳の家仕着　復物

や
[illegible]の鶴よりつまし殺つめ　尼外
やをきき生子子紙や赤の柱　素交

山粧
先子より山粧やを文子の奥　秋方
嘉表子よりふ山の粧い八　子笠
石の上よりもやまの山のうけ　百杯

やノ子
[illegible]ノ郎

山城
子八子乳里文子り城ノ山　雨子
山城子ノやを子を子より子　祖々
月水よりつ山八城ノ子　桂山

八月
鰻
[illegible]月りやハ月子[illegible]居子[illegible]　和柳
子ろりぬやハ月月鰻の縄子子み　芦庵

尼拂
[illegible]き物の[illegible]ノ尼拂　西時
[illegible]子[illegible]子[illegible]ぬ尼[illegible]　一[illegible]
二人文[illegible]やく[illegible]　樓[illegible]
已ろ[illegible]を仏より尼子子い　小紙
夕書や[illegible]ノ尼拂　龜岡子

[illegible]ノ書子郎

松の内

人の家にて松も今はすぎぬや松の内　仁里
花さらぬ枝さらぬ家に松の内　卓池
為るとなくして静なり松の内　欽哉
松八松にて為ぬ事なり松の内　孙童
松を一の綱よりまつの内　沈壺
松八松の遊しも出ずして松のうち　梅山

陶人に向て万歳の舞ハ磯家八　京童
万歳よ寿ぎいらぬ者ぞうり　竹賀
万歳の名ぞ名ぞ名ぞ流花性　玉蓮
まつの名の如くを為りの徒八　梅歌
万歳や戸ぼそのかぶる袖のうち　寝居

万歳や門の松八まつ丈ける　山路
万歳や遠しるも寿の乃　丁和
万歳の見仏信の為る角ぶく　芳帆
万歳の口ぶくみ舞しくるうり　重国

松の花

人家も繁きくれしの松の花　桃雪
出のうちの千年つきやむ松のむ　嵐古
住のうつ磯遊つるやや松のむ　浦民

松生る

松生りて野を遊ぶ子ども生る　紫舎
生る時や松生りて里まるる　等菊

馬刀

雲のうらつるかまるのさはの角秋八　嘉丸
ゐるかまるの及こゝるかアるめく　山陽
ゐる刀貝や雲陰ちゝ海るの　山青
砂よ陰まゐてゐる刀つゝ千陰八　子陽

まつ夏の部

初茄子

刈るかまるきゝ初茄子陰ゐる　尺山
アよ田のゝ生る初茄子ゐつゝ八　雪笠

夏の花

撫子や咲くも夏の花　多吟
撫夏子　咲くも夏の花　素交

生葉瓜

甘臭き瓜の白い中青葉瓜　雪笠
味白て青きはまるゝ八瓜　由誓

了

初夏人の生るゝ八ゐよ柳く柔ゐ八　一夕
風ちゝ初よ芋ゐまるまゐ八　柳園
柳の子よ花の糸ゐ陰る柔ゐ瓜　大鵬
千ゐ陰生ゐ柔ゐ陰ゐ八　幻外
ゐる人ゐゐゐ人ゐまゐ八　物枝

まつ秋の部

松虫

松虫や壺屋の笑ひうち　大梅
松むし や井戸の[illegible]つ　菊古
まつむしの[illegible]造[illegible]ある　玉光

曼珠沙華

[illegible]の[illegible]　傳蕉
井戸[illegible]村[illegible]　露丸

紙書

紙書や白[illegible]　玄山
まつよひ[illegible]　素一安
紙書[illegible]　傳蕉
[illegible]　其聲
まつ書や[illegible]　一具

[illegible]

[illegible]菜

[illegible]菜や[illegible]　雄芽
[illegible]菜や秋[illegible]　山蜂

松茸

[illegible]茸や[illegible]の外　大梅
松茸や[illegible]　万像

[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　露丸

[illegible]市

[illegible]人[illegible]　多代女
[illegible]市[illegible]人の[illegible]屋の舟　梅[illegible]

冬ノ冬之部

豆腐

苫かへて打ちて打ちて手の豆腐　素竹

豆腐の切手に一寸八分の汁　楳雅

煮ゆる手あつしと見ゆる鼠八　芳樹

手器の匂ふや椀手汁と豆　風牙

汁ノ冬之部

今年

新しく見る冬の汁の味の汁　探鳥

帰りも匂ふ手水て手水や汁　信手

の汁

旅まて寒き夜ながらの汁　布柏

ふく寒て心よりも冬の味　貞山

膝ししきの冬のまゝ汁の汁　梅実

魚汁
文

炭焼人いのちとし魚汁の味　桂志女

心待ち喉て椀の汁や文　一雅

何しとらぬ夜更人のゝ味　杜鶯

割汁

るのさして熱き喰ひ割汁　鳥谷

寂しき汁の中まで割汁　岸笠

清水や水まかぞへ五升　楯海

五冊

咸安
古殘
元雅

けノ夏三部

物宗
草池
以後
黒雅
屋敷
大岳

下

萩子

夏籠

籠山
みゝ
亀宗
陸雅

夏畫

畫山
草池
所考
物之
南牧
西風
天山

毛虫

[illegible]　拳一
[illegible]　兄外
[illegible]　時石

一ツ蔵こ毛虫よ掃や生る井
[illegible]　新鳥
秋を[illegible]て兄る毛虫小
[illegible]　蓋九
[illegible]毛虫を掃る末下小
[illegible]　卜早
[illegible]毛虫小
[illegible]　物室
水傳へ下りて中仏る毛虫ゥ[illegible]
[illegible]　悦宗

けノ秋を郷

今年の秋

今年の秋ましたの[illegible]掛屋小　一[illegible]
桶よりく松葉の古ノ[illegible]の秋　農文
[illegible]の芽ノ[illegible]より傳るや[illegible]の秋　[illegible]
[illegible]の花ハ桶[illegible]生ぬや[illegible]の秋　井姫
[illegible]の蔦ましる人[illegible]秋[illegible]ましの秋　卜早
[illegible]の秋ましよ蔦[illegible]ましの井筆　聲泉
二三寸傳水[illegible]絶て[illegible]の秋　蔦机

[illegible]ましよ[illegible]て[illegible]　農山
[illegible]ましよ蔦[illegible]傳[illegible]や[illegible]　魚和
[illegible]や[illegible]秋[illegible]下岩井　陽他

鶏頭

鶏頭や伸るもあれば縮るもあり　白き帆
もの見のごとく赤きかな　鶏頭　雪岡
鶏頭や戸樋の中もこれ鶏　牡鳴
鶏頭やこれもこれのこれも鶏　禾木

けし

けし花や風をはらんで山の雨　椿山
うつくしや夕貢の畑焼　寛里

けんかん

けんかんの一日ながつて高くうつ　山雄
昏るゝを待ちかねるハ仏と名んるの　青雅
ゆゑ相ケ浦鶏の為にうんぬん　素文

玄猪

亥猪は古風の残る玄猪かな　雨竹
火を焚よ人も焚よる玄猪かな　尺山
餅搗の赤例まつぬ玄猪かな　護物

ふの字部

福寿草

福つくよ元年もあるる一種かな　松竹
ゆゑく寿草や蕾てのつるまつ　由誓
るのゆきるるまく古年の寿のまつかな　鉄印

大著

福壽草

杜水
相惠
陸田
源性
水竹
梅室

九紀
惠重
五稜
素山
出雲

二ゐ
癸

芳雅
玉山
一の源

菅初

大梅
好都
斗米

福曳

一雅
松什
山海

蕨の蕊

福井

咲て亦てきうよ考るや蕨の蕊　物象
まのたて伝つ咲くや蕨の蕊　太走
拍色ハ融ひのうちや蕨のくう　陽池
うるむしまるて春のあ蕨の蕊　東園
地蕨のつひと畠や　みきのくう　素山
ま伝おの蕨と山あ蕨の蕊　傾谷
所うりてきうしく　素や蕨の蕊　希國
色抽て休む団光や蕨の蕊　嶺玉
拍伝と尾も世色や福井　獲物
物よそふ等のうめや福井　卓丈

蕨

福井

迫くもも考けてゆるや福井　梅山
紫拍色てあさもきは蕨のむ　秋冨
結ひれもきてゆきこのや蕨のむ　小亭
蕨ホも西るのきやみのむ　可正
尾ひてまのあねや蕨のむ　一雅
融うる蕨の芽やみきの色　李池
水底を尾きて蕨むのうきハ　秋雄

ゆうこそや一人ようつひて蕨
蕨軒の仲るきつきや俤悔也
ゆうこそや尾の様俤考うて

尺山
飯宝
松泉

ふノ夏ゑ郷

畑の干　逆伝飯袋

畑の干井ゑ小ゑ伏屋小
ゑく紀ゑ逆山ゑ屋や干

舟逆　機好天山宮乗

そゑ屋ゑ人も変ゑ舟逆小
逆しゑや山ゑ井出ゑて船ゑゑ
舟逆い　ゑゑ医ゑ変ゑ

佛生　一雅書逆

養ゑよ小ゑ人しゑ小ゑ仏ゑゑく
人も小ゑ生れゑ明小ゑ井小

下

龍宮

仏ゑ小ゑゑ小ゑゑ養屋ゑ乳
小ゑ井ゑゑく世の宮 薬や仏生宮　余他

納

井戸猫の逆小ゑ屋や納の乗　書籍
納乗や空ゑる河の畑しつゑ　山海

富士信

ほろゑゑ重ものゑる地しふ二信　里書
ゑ物の峰ゑ書い竹富士信　雨竹
二紀を持ゑゑゑゑゑゑゑ信　角く
書ゑや紀乗ゑゑゑふ二信　黄三
黄ゑゑ村名ゑゑ富士信　空外

拓舞水

山ごとに拓舞水を囲さなり
囲ふなるまい水やーの行り拓　一傳
色色や拓舞水のまま陽り　多傳

ふノ秋ごと新

文目

文目や寄るのうるる京の水　物言
文目や香ーこまよ松の香　傳家
ゆき目や拓る萩のあき緑の光　言ト

新

生れるゆくく出発ゆ学の尾　楽人
絶先のうる出まて行る新乳　亀新

下

蘭

芙蓉

蘭色の色の咲物や寄の蘭　六五
まりゆるゆ文の山や新や蘭まま　甫山
水ごとの生ゆ多の先や生絞　文傳
行くゆくよれぬ白しや蘭絞　傳物
ゆくゆくしの風ゆまゆ生蘭ゆま　百夢
まゆまゆまゆるゆ蘭ゆ　何暁

芙蓉

芙蓉行ーゆ芙蓉咲　傳く
枝ごとの蓉枝行の芙蓉乳　卓他
尾道の机ゆーゆる芙蓉小　言雅
白秋ひまるゆの行る芙蓉小　傳物

ふゝ冬ゝ

信濃の男うら冬の白　桂山
海ゝ河の水冬の白　文海
樋を去る常の冬の白　卓池
風上乃冬大ゝ雪うて冬の白　尤外
彼よりの枝まくるゝ冬の白　素雅

冬の白

冬のゆ

冬のゆるのてうく白の白切代　名香
うるゝ紅ぬく糸や冬ゝ　小鯛
冬のゆるのゝ月ゝ降の土蛍ゝ丸　茶山
一傳ゝ冬ゝてうく冬ゝる小　梅巣

冬牡丹

冬ゝ冬ゝ冬ゝ牡丹　仮寺
冬ゝ冬ゝ冬ゝ牡丹　竹山

冬の山

人里ゝ冬ゝ冬ゝ冬の山　秋冨
ゝゝ枝木ゝ冬ゝ冬の山　尤外
冬傳のゝ冬ゝ冬の山　宮舟
冬ゝ冬ゝ冬ゝ冬の山　一甫
冬ゝ山傳ゝ冬ゝ冬ゝ　素交
冬の山ゝ冬ゝ飛ゝ冬ゝ　梅宝

ゝゝゝゝゝゝ冬ゝ冬ゝ　一地

本立　時を知るつる毎の書物を本立
風合の出よいつる蒙物を本立　卓他
物を出て品を出すを能
書島の庵を持つ
手料理の柚味噌自作を能　一穴
きさらぎ物を物して面能　桃水
栄慶　栄慶や一位を少々出るを和　丹外
栄慶や一白髮を書をさし　生慶
古鷹　知るるの多くを佛一古くみ　通流
　　西摩

古一と人物をくを出るを　宜稿
鰒
鰒汁や鰒を人の上生を　完共
今時分を生や好の多くを　黙池
自然を遊りを友や人の孫汁　喜雅
き一つ汁を鰒汁や舟を　一庵
床生一て船を老のみを　京魚
る士の多を、生て庚辰を人を　大柄
栄糧をもをを人の書を　重居
船をもの人を書を　五鬱
を書きを一て書を人を　一雅

雪の雨

雪吹

柄杓　基定
清月
多代女

雪流
一雅
清月
松竹
風和

鰹

蒲臺

白鯨

完我
琵琶
素雅
一俊
京魚

大柄
重居
五馨
一雅

[illegible]

冬の雨

冬時雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬枯

冬枯や一部霜よる蘆変　[illegible]
冬枯や[illegible]れの枯樺　長崎　[illegible]
冬枯や一つる金の光り煙　[illegible]
冬枯や[illegible]るまゝ[illegible]の枯　古[illegible]
冬枯や一部よそやきうゑつゝ　[illegible]池

乙ノ[illegible]ノ[illegible]部

飯蒸も相打[illegible]山内　古山
[illegible]の[illegible]の[illegible]山内　栄人
[illegible]よ[illegible]山内　素風

下

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]山

[illegible]

東風

東風の[illegible]
東風吹や一人二人の[illegible]
東風吹や[illegible]
[illegible]東風よ[illegible]
初東風や一[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　相長
[illegible]　楠堂

小松

行く路あるこまかる小松あり
松はつはつて側の小松と引ようす
東さまよいる松のみれいうす
素物や　行くと小松のてわる土
田うつのして　引ねる小松八
垂迹八幡は松つゝ小松引
君々参詣して引まき小松八
ちまつかゝ　綱ゝを生て小松哉

梅寸
一雅
石居
古屋
水明
桂志安
梅宝
落九

余の為ゝ　遠き紅梅の木の芽八
遠ひる　梅なる　梅の木の芽八
々約梅と　枝のうゝぬこのめ乱

一琴
兄外
全る

山の芽

夕風の止て　明るき木の芽八
つゝしかるる　散ぬるこのめ八
時過て　秋ゝら出る木の芽八
こゝ出て　ゆよ芽ゝ欲義なし
木の芽吹　ゝ　ゝ　ゝ

梅寸
今俊
真宝
都文
ゝ

約束

約束　峠　ゝ　ゝ　芽ゝ　茶屋
嵩よ　ゝ　ゝ　ゝ　約束の寿
約束　峠　ゝ　ゝ　ゝ　の能の上

義山
古山
隆物

和梅や　斤　例　梅て　ゝ　ゝ
時　ゝ　て　吹　和梅の　ゝ　木乱

卓池
梅門

紅梅

紅梅や　梅除くもの　重彩
紅梅や　遠ひまさる　乳兄弟　伯逸
紅梅や　只代々　情の　新　兄外

寒梅の　ちらうる　幸夷　政上
蕊しるの　ちるよ　山の　重陽　一貞
町中も　俺と　俳居や　咲幸夷　子陽

二ノ夏　て　郎

梅ちる　水　きめて　朱下　雪　烏宏
絶水の　流　きる　朱下ゆく　良山

朱下閣

梅の　蕊の　繰　朱下　雪　梅蕊
下ゆく　俳の　遠　寺　梅ち
俳ち　咲　きる　朱下　雪　新

更衣

更衣　松　俳　梅　麻呂
きて　生　力　更衣　陵亭
人我　ち　ゆく　兄外
更衣　出　る　蕊　八　義　ち　屠郎
雅　の　行　義　つく　更　衣　火鉢
雅梅　一　何　ち　ち　衣　梅蕊

松　雅　ち　生　梅　雅　苦　の　も　百年

苔の花

洗米を行一雅やしこりの色
ふるめく水の面ふこりの色
松葉より外よ苔の色
苔をつつぬの花
苔ふる水の角やこりのなる
苔の色ふを拾てこりふ蓄
松つきふる梅の花やこりの色
踏ぬ一ふもよふきふ苔の色
温泉あふふ咲ふ苔の色

新ふふ苔ふ咲ふ苔の色
ふふふ苔ふ咲ふ苔の色

俳外
徐雲鶴
慶象
卜早
ふふ安
春岐
自雪
京古
幸他
砂自
龍垂

今年
竹

ふふ竹雅一雅竹ふふふ
自松ふふ葉ふふて春竹
一年八月の竹ふふふ
松松ふふ春花春竹春

宮補
葉雷
卜雪
里麦

二ノ秋ふ郷

蝉や降今日の長ふふ
卑下ふふ蝉の降蕩乳
蝉や松ふ戸ふふぬふの老家

虎芝
物宝
苔九

新松ふ仮て出やふふ俗
傳音

蝉

今年西

約速

小六月

庵先や一家の客をる庵
老仁八藤きく子一人也　玉子
山外

姫も一絶をる出仁や絶速　西写
交をるこい絶をの外や約の名　石彼
約束や一橋より自分あぬ六八入　交水

こつ香こ船

物傷よ鬼も出るこ小六月　雪彼
約の写や一宿雪ゆる小六月　石三
紙ふして梨子の夏や小六月　杜水

小春

雪の写の松うて出る小春孔　庵年
約の写出りをる小春八　椿原
春つうりをる一写出小春八　蒼机
雅の木の実よりの小春孔　龜笑
雅栄をるにてをる小春八　探香
蝶ををを鳥の出仁小春孔　春雅
様春より絶ををゆる小春八　有杜
移ぬきを柿も小春の市場八　伴園

答ル
續

につりをを續答る雅の上　生彼
交て春る年仁答る春の春　庵春

風

[illegible]

秋季

[illegible]

乙亥　一止

一　旭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

末の葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

美講

[illegible]

上下の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

方寸
昌風
素悅
一[illegible]
[illegible]古
素風
一[illegible]

悟

[illegible]

悟[illegible]

[illegible]

三[illegible]
[illegible]堂

出代

出代[illegible]

出代[illegible]

出代[illegible]

出代[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

諸

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

池水を汲のる者や門の奥　蓑甲

蓑虫や笑ひそこなひの小料理屋　蓑机

蓑虫のうらみ出す小柳　山影

蓑虫のうらみ水に洗ふ丸　富女

蓑虫や夕の月の新の間　後物

蓑虫

晩年の名に恥やあの蓑　小春

行くえなるや小窗の雨考　松風

蓑虫や高きやうに晴ゆく　赤月尼

蓑虫

蓑虫を見てあるや涼所　昔丸

蓑ぬぎや寺を移す仏達　業外

蓑ぬぎやしらべ能きる乳　逸翁

蓑虫

蓑虫や水の秋の姫蛍　睡蓮

蓑虫よ一宿寺を水　丸翁

蓑虫や峠恍らつる庵　京池

蓑虫や竹の一本あり　龍古

蓑虫や二筋ゑ家雪の行　大莫

蓑虫や水ゑてうの小舟　徳池

菊の角　北条氏長

朝顔　御蓮

蛇　隆徹

毎月と呉絽屋生れの角
引ばるまるこのろ紙の角
移夕の夕ぬ一ろ芋の角

物書や　ろ手ろ　ろ。振出し　隆と
物蒔や小寸合ゑ俺て出る　素交

地ろろのろやるあるよ地の寿　あく松
蛇なくや井組本ろ　ろ松寿
蛇なろくや是ゑの物の白ろ　相寛
ろろて集て蛇のろろ　一雅
物年の為て蛇ろ　隆徹

下